

宗吾霊堂

宗吾霊堂、別名東勝寺は、700 年代後半に将軍・坂上田村麻呂が戦没者供養のために建立したと言われる古寺である。約 360 年前に、「宗吾様」として知られる佐倉惣五郎(1605-1653)を祀ってから、その呼称が変わった。宗吾様は地域の長であり、貧困や飢餓から農民を救うために、当時の将軍(日本の軍事的独裁者であり支配者)に対し立ち上がった人物である。今では、宗吾霊堂は紫陽花の名所として知られ、また佐倉惣五郎を偲ぶ御待夜祭が行われることで知られている。